

第 8 期諏訪湖水質保全計画（素案）に関するパブリックコメントの概要

1 募集期間

令和 4 年 9 月 21 日（水）から 10 月 20 日（木）まで

2 提出件数

13 件（意見数 102 件）

3 意見概要

(1) 水質に関すること 26 件

- ・珪藻類の繁茂に影響を与える、ケイ素の動向にも着目すべき。
- ・水質改善については流域下水道の果たした役割が大きい。
- ・諏訪湖の生態系復活に向けた早急な対策を求める。
- ・ネオニコチノイド系農薬の影響が心配。
- ・被服肥料ガラがマイクロプラスチックとして流出する問題についても言及すべき。
- ・貧酸素対策として、より具体的な施策を検討すべき。

(2) 調査研究に関すること 15 件

- ・気候変動が湖沼環境に与える影響を調査するべき。
- ・瀬戸内海における貧栄養化の事例との類似点を考察するべき。
- ・水質目標の指標となる生物を検討し、住民の興味や教育にもつなげるべき。
- ・湖底の腐敗汚泥を引き抜き、堆肥、燃料等としての活用を検討してはどうか。
- ・土壌浸透トレンチを活用した雨水の涵養を検討してはどうか。
- ・鉄の酸化還元反応を活用した底質改善を検討してはどうか。
- ・諏訪湖環境研究センター（仮称）を市民参加の拠点として活用すべき。

(3) 漁獲量に関すること 12 件

- ・諏訪湖における生物多様性の損失は顕著であり、早急な対策を打つ必要がある。
- ・直近 2 年間の漁獲量減少は深刻であり、記述に危機感が足りない。
- ・諏訪湖において繁栄しているのはワカサギなどの移入種のみであり、厳密な意味での在来種文化は成立していないのではないか。
- ・外来魚種の駆除を漁業再生の指標とすることは不適當。

(4) ヒシ刈り取りに関すること 9 件

- ・ヒシの繁茂は、魚類のえさ場や生息域になるメリットもあるので加筆すべき。
- ・生物生息域を考慮した刈り取りを行うべき。
- ・観光に利活用される範囲は重点的に刈り取りを行うべき。
- ・オニビシへの植え替えによる、ヒシの種子活用も検討すればどうか。

(5) 浚渫・沈殿ピット・植生水路に関すること 6件

- ・浚渫の再開を望む。水質浄化を目的に実施した浚渫の効果検証が必要。
- ・沈殿ピット、植生水路の実施例は少なく、管理手法の確立に向けた検討を行うべき。
- ・植生水路には効果があるのか疑問。
- ・関門海峡などで実績のある分級法による底質改善も検討すべき。

(6) 覆砂に関すること 5件

- ・覆砂によるヒシの繁茂対策の観点を盛り込んではいかがか。
- ・覆砂事業は適切に施工管理されているのか。覆砂は本当に効果的なのか。
- ・シジミの生息を覆砂の効果としているが、シジミよりも魚類の生息環境改善が急務である。

(7) エゴの再生に関すること 4件

- ・エゴの再生については事業が進捗していない。
- ・エゴの再生事業に大いに期待する。

(8) 釜口水門、魚道に関すること 4件

- ・釜口水門の放流量を変化させることによる湖沼水質への影響を検討すべき。
- ・魚道が急勾配となっており、魚類の遡上が困難なのではないか。

(9) 水質保全計画全般に関すること 8件

- ・第7期計画の事業進捗を評価し、第8期計画に反映するべき。PDCA サイクルの導入が必要。
- ・下流域との連携を強化するべき。

(10) その他 13件

- ・歩行者も安心して利用できるように、サイクリングロードのルール整備が必要。